

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳を重視、一人ひとりの生活を大切に寄り添う介護を理念に掲げミーティングや申し送りを通して実践に努めている	ホーム独自の理念をミーティング時に話して意識付けを図っている。また一人ひとり職員に現場で伝え指導し共有され、日々の支援が理念に沿って実践されるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への入会、地域の掃除、お祭り、地域合同消防訓練等、日々の生活を通して地域の方と交流している。地域のボランティアの方の協力を得、楽しみに繋がっている	町内会に加入し回覧板を回している。喫茶店への外出や散歩の際は地域の人と挨拶を交わしたり、近所の住民から季節の花を頂くこともある。地域の清掃に利用者や職員が参加し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員、近隣住民の方を通して地域の高齢者の方が気軽にどなたでも立ち寄っていただけるよう働きかけている。利用者様の友人・知人が訪問して下さり今後も開かれたホーム作りに努めていく	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎の運営推進会議では事業所の実績報告や近況報告等を行い参加者の意見や提案をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は二か月毎に開催されホームの状況、行事、事故報告等詳しく説明し、参加者に理解を得ている。又参加者から出された意見、提案等は運営のサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者には認知症重度の方の対応相談や事故報告の際には指導助言をいただきながら改善・質の向上に取り組んでいる。2月毎に介護相談員の訪問があり助言を受け改善に繋がっている	役所には電話連絡の他に更新手続きや体制届、事故の報告等で出向き相談や指導を受け協力関係の構築に努めている。市主催の研修に管理者が参加し、ミーティング時に伝達している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の支援の中で身体拘束をしないケアの実践に努め、日々の申し送り等機会あるごとに身体拘束に対する認識・理解・周知を図っている。言葉の拘束、行動の制止にならないよう全職員で注意を払っている	玄関の施錠は家族の同意を得て安全の為に施錠されている。身体拘束のマニュアルも有り、外部研修にも参加しミーティング時に話し合っている。日々の支援のなかで何か有ればその都度対応し、指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が注意し身体的、あるいは言葉の虐待が見逃されないようにしている。内出血痕や傷等見つけた場合は原因を明確にし業務の見直し職員の業務負担を考慮、虐待防止に努めている	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な方には支援している。ご家族からの相談を受け、関係機関へ繋げるなど、制度を活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険法に基づき契約時には十分に説明を行い、理解していただけるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見・要望に対して速やかに対応し、職員間で周知・改善に努めている。また、どんなことでも言っただけのような信頼関係の構築に努めている	利用者の要望等は日々の関わりのなかで聞きだしている。家族からの意見、要望等は面会時に聞き、職員間で共有し、速やかな対応に管理者は心掛けている。又何か有れば電話やメールで連絡を入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、常に職員の意見や提案を聞く機会を設け問題の見直しや解決に努め運営の充実を図っている	日々管理者は職員の意見を汲み取るように努めている。代表者は面談を行い職員の意見を聞く機会を設けている。給与面の見直しやフロ、トイレの手摺りの必要性等の意見が運営に反映され職員の働く意欲への向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全ての職員の努力や勤務状況を把握するよう努め、それぞれの職員がやりがいを持って働けるよう給与水準の引き上げやより良い職場環境・条件等の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験・力量に合った指導方法を検討、働きながらトレーニングを進め業務を習得している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	30年度地域のグループホーム連絡協議会が発足し同業者と交流する機会ができてより良いサービス向上に繋がっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様の自宅や入院中の病院訪問等行い、ご本人の思いや要望を把握、ご本人の安心に繋がるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時等初期において、家族等から困っていることや不安・要望等聞きながら関係作りに努め安心できるよう支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族がどのような支援を必要としているかを見極め、身体面・精神面等その時々状況に合わせたサービスが提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にし、職員は利用者様と職員が介護する、される立場にならないよう、共に暮らしをする者同士のきずなを大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にはご本人の状況を報告し、ご本人の意思を尊重しながら一緒に考えていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしてきた関係やことを大切に、ご本人・ご家族の希望を聞きながら希望にそう支援に努めている。	友人の訪問や年賀状の名前書き、電話をかける等馴染みの関係が途切れないように支援している。家族の協力を得て墓参り、外食、美容院へ出掛けたり自宅に泊まる人もいる。入居して喫茶店やお地藏さん参りが馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士会話が円滑にいくように見守り、関係性を把握し状況により職員が間に入るなどクッション役となり支援を行っている。また孤立されないよう十分配慮しながら支え合えるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後においても必要に応じて対応、ご本人・ご家族の支援を行い協力できるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日の体調を確認し、ご本人の要望を聞き無理なく過ごしていただけるよう努めている	思いや意向は日常の利用者とのコミュニケーションの中から、又、職員が進める事への表情や行動も見ながら把握している。マンツーマン対応時も上手く利用し、職員間で細目に情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い頃の経験やこれまでの自宅での生活を知り、その方に合った過ごし方ができるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックから日勤者・夜勤者の申し送り、その時々々の状態を確認・把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調・生活の状態を観察し、職員間・管理者・ご家族に相談し現状に即した計画を立て実施している	家族からは電話や面会時の経過報告から思いを聞き取り、日々の様子や職員の意見、モニタリングの内容を反映して計画を作成している。基本見直しは1年で、区分変更や入院、状態変化時は柔軟に対応し現状に合ったものとなるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録記入から職員間で情報を共有し必要時の見直し、介護・介助を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対応してサービスの多機能化に取り組み、一人ひとりを支え安心していただけるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが地域の中で安全でこれまで培われてきたことなどを支えに穏やかに豊かな暮らしを送れるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回かかりつけ医の往診を受け、常に適切な医療を受けられるよう支援している	基本は入居前のかかりつけ医を継続し受診も家族対応としている。協力医の往診は月1回で、日常の健康管理は看護師職員と相談・連携し適切な医療支援に繋げている。毎月訪問歯科の口腔ケア指導がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や協力医院の看護師等と連携しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。毎日の健康管理は職場内の看護師に報告、相談し異常時・体調不調時等、早期対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携室・ナースステーションとの情報交換等行い退院時の受け入れに備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明、同意書をいただいております。重度化することがあれば、ご家族・医師・職員と情報共有し話し合い、事業所でできることを説明しながら方向性を決めるよう努めている	入居時に重度化に対するホームの指針を説明し、同意を得ている。状態変化があれば随時本人・家族・ホーム・医療関係者等と情報共有や話し合いを行い本人本位の対応を心掛けている。今年度看取りはなく福祉施設へ移設された方が数名あった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は応急手当や初期対応について話し合う機会を設け実践力を付けるよう努めている。緊急時に備えたミーティングを適宜行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て防災訓練を実施しており、今年度は緊急通報訓練を実施し、3月には地域開催の災害訓練に参加予定である	今年度避難訓練ができず、1月に緊急通報訓練や消火法の実践、3月には地域開催の防災訓練に職員と利用者が参加を予定している。学区公民館に全住民分の米・水・レトルト食品が3日分備蓄されている。	利用者も参加の年2回避難訓練の実施が期待される。備蓄内容についても確認し、不足分のホームでの対応も検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の思い・気持ちを汲み取り、入浴支援や排泄支援ではプライバシーに配慮した介助を行い、人格を尊重した言葉かけをするよう努めている	理念に基づき、利用者の尊厳や人格を尊重し、さりげない対応や言葉遣いを心がけている。入室時には声をかけ、入浴や排泄介助では自尊心を損ねないような支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の関わり・会話の中からご本人の思いや希望を聞き、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしていただくか心身面を考慮し、有する能力や希望等に合わせ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやその人らしい装いができるよう、思いを聞きながら支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう利用者の方の好みを取り入れ喜んでいただいている。負担にならないようできる範囲で手伝っていただく	食材が届き調理専門の職員が携わっているが、利用者の要望に合わせて変更する場合もある。お誕生日には好みのお赤飯やちらし寿し、おはぎの提供やケーキを手作りしている。水分摂取や状態に合わせた食事形態について職員間で話し合い工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ食事形態・食事量の確保、栄養バランスの配慮、糖尿病や透析の方の食事については病院より指導を受けている。水分については脱水・熱発防止のため飲料の十分な摂取に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持、疾病防止等から、毎食後一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを実施している。歯科検診を定期的に行い必要な方は訪問治療・歯科衛生士の指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表から毎日の排泄状態を把握し、その方に合った排泄支援に努めている。トイレトレーニングを行いトイレ排泄を維持できるよう支援している	自立の方もいるが、排せつチェック表でリズムやパターンを把握し声かけや誘導で支援している。夜間も個々に任せ定時誘導の方もいる。自立に向け筋力強化や衣類の見直しに取り組み、改善した方がみえる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄表から排便状況を把握し、個々に応じた予防・支援に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの習慣や好みを大切に、できる限りご本人の希望に添い入浴支援を行っている。季節に合わせて、ゆず湯・みかん湯・菖蒲湯等を実施し喜んでいただける	一人ひとりの希望も取り入れながら週2回入浴している。拒否される方は時間をずらした、声かけ方法で対応している。ゆず湯、みかん湯、しょうぶ湯で季節感を取り入れながら楽しみとなるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活でのストレス軽減や夜間の安眠につながるため状況に応じ、仮眠時間を設け休息できるよう支援している。夜間の安眠確保のため体の保温・日中の活動性を高める等抵抗力をつけ、心身の安定にも努める		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用を把握・変化等把握できるよう薬説明表をファイルに綴じ常に確認できるようにしている。適宜、薬剤師に相談できる体制がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限りご本人の持っている力を活かせるよう留意し、役割や楽しみごとなどが気分転換になるよう支援している。四季折々毎のオブジェ作りが楽しみになっており有する能力に合わせ役割を持っていただく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望をお聞きしながらご家族の協力を得て出かけられるよう支援している。毎月近隣の喫茶店へ出かけ楽しみに繋がっている	体力低下の方々が少しずつ増え、以前より散歩の回数が減少しており、庭の草花の手入れや水やりで外へ出る機会を増やしている。神明公園でのお花見や近隣の喫茶店以外の外食や買い物、外泊等は家族に協力してもらい、それぞれが楽しめる外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じ、ご家族の意見も考慮しながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人に代わり職員がご家族に伝えることがある。携帯電話を個人で持たれる方はご家族の協力を得ながら継続できている。季節毎に絵手紙を描きご家族や友人との交流の一環になるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング食堂の壁面など季節に合った飾りを付け楽しく暮らせるよう努めている	限られた広さではあるが、玄関やリビング、庭には季節感に配慮した数々の作品があり、利用者の塗り絵、行事の写真も職員の工夫でホームでの生活ぶりが分かるように飾られ、和やかで居心地の良い空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ固定の場所があり同じテーブル同士の方で会話を楽しまれたりレクリエーションを行っている。心身の状態に合わせて動作しやすいよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族や若い頃の思い出の写真を飾ったり居心地良く過ごしていただけるようにしている	馴染みの家具やテレビ、写真、作品が飾っている方もあれば、生活必需品のみの方もあり、利用者一人ひとりに合わせた居室づくりがされている。冬はガスストーブを使い換気や室温管理にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部・各居室には常に周囲に危険物がないか安全確認を行い、また自立を尊重できるような環境作りに配慮している		

